

— あす盆の入り —

少子高齢化やライフスタイルの多様化を背景に近年、墓参り関連サービスが注目されつつある。忙しい、遠い、高齢になった。さまざまな事情によるニーズを捉えた、墓参代行などが登場。苦小牧でも高齢者の墓参りに連れ添う同行サービスに乗り出す業者も現れ、供養をさまざまな形で支えている。あす13日は盆の入り。



遺族に代わって墓参りする苦小牧の業者

苦小牧市系井の家事代行業「ライフスマイル」は今月から、高齢者層をターゲットにした墓参り同行サービスを始めた。墓参りの送迎と墓掃除をセットで引き受ける内容で、基本料金は1時間3000円。同行は市内限定で、送迎代は一律900円。

依頼者が同行できない場合は、スタッフが代わりに墓に手を合わせる。

この他、オプションサービスとして「ろうそく・線香のセット」「供花」「写真撮影」をそれぞれ500円で提供する。

墓参同行を始めたきっかけ

代行や同行のサービス増加

は、家事代行を利用する高齢者から「足腰が悪くなり、墓参りに連れ添ってくれる親族もいない」という声を多く聞いたから。代表の横山美加さん(26)は「私自身、3年前に父をがんで亡くした。それ以来、悩んだ時にはいつも父の墓前に手を合わせる。

せ、背中を押してもらった気持ちになる。お墓に直接足を運ぶことで、お年寄りの方々も気持ちが前向きになれるのでは」と話す。

市内末広町の家事代行業「便利屋あか助」は、7年前に墓参代行サービスを始めた。依頼者の大半は本州に暮らす30〜40代の若い層。実家のある苦小牧で墓を守り続けた両親が亡くなった。親が高齢や病気で参りに行けないといった理由が多く、少子化や地方に残る墓参の担い手の減少という現代社会の

「ネット墓参」なるものまでも

高齡や多忙、遠距離…社会構造の変化で変わる 墓参り

若い世代には意識の薄れも

構造も垣間見える。

同社社長の片岡圭介さん(34)は「若い世代の中で、墓参りそのものに対する意識が薄れているのも事実」と指摘しつつも、「先祖を思う気持ちはいつの時代も変わらない。墓参代行はこれから成長が見込める」と話す。

関連ビジネスは全国的に広がりを見せており、インターネットによる仮想的な墓参りサービスも人気を呼んでいる。

東京の葬儀社「アイキャン」のネットサービスでは、パソコン画面上に故人の墓を持つことが可能だ。マウス操作で花や線香などを供え、画面に向かって手を合わせれば「墓参り」が完了。お経やクラシック音楽を流せる他、故人の写真や略歴の紹介、さらに掲示板機能を使って「記帳」もできる。

費用面などで本物の墓を持ってない人から関心が寄せられており、ネット墓参サービスには同社以外、寺や民間霊園業者も相次ぎ参入するなど競争激化の様相にある。